

ひだまり



MOTHERTH

MOTHERTH NURSINGHOME FOR THE AGED

東久留米市の高齢者福祉のために



社会福祉法人マザアス
監事 我謝 悟

私は、平成24年から評議員として、26年からは監事として関わらせていただいています。

いつも、マザアスの皆様のお働きについて、ご報告をうかがいますが、その活動の素晴らしさを痛感させられております。この東久留米市には、介護サービス事業者協議会という組織があります。この組織も、高原理事長のご尽力で立ち上がったもので、東久留米市や医師会、歯科医師会、薬剤師会などからの協力を得て、福祉と医療の協力体制が少しずつ進んできていると思います。

今年度の介護報酬改定は大変厳しいものでした。その厳しい状況の中、軽度の方々のサービス提供は各自治体で対応することが求められています。そのことに加えて、社会福祉法人改革がなされ、地域公益活動が責務となり、地域の介護・福祉ニーズへの対応も求められています。

東久留米市は、29年からの新しい総合事業について事業者とも協議しながら、東久留米市らしい、総合事業を作り上げていくということでした。我々介護サービス事業者としても、自分たちに何ができるのか、そのためにはどのような仕組みが必要なのか、決して押し付けられた事業ではなく、地域住民の為に、サービスを必要とされている方々の為により効果的な事業にしていきたいと思っています。今まさに現場で働いている皆様のご協力が必要なのです。みんなで知恵を出し合いながら進めていきましょう。

平成30年の次期報酬改定は、診療報酬との同時改定になります。財務省はさらなる大幅な抑制を打ち出してくるという事です。東社協の東京都高齢者福祉施設協議会でも、そのことは全体でも調査データを集め、分析し、働きかけていくことにしております。ただ、都レベルだけでなく、地域ブロックや、区市町村レベルでの働きかけも不可欠です。

東久留米市の事業者として、協力し合いながら「この市に住んでいて良かった」と思ってもらえる地域にしていきましょう。私たちのこの仕事が、地域に不可欠なものであり、若い人たちが、この仕事をしたいと思ってもらえる憧れの職業になるよう、私たちが輝いている姿を見せていきましょう。

若年性認知症の方への支援

マザアス新宿
施設長 来島みのり

1. 若年性認知症の当事者と家族の会「芽吹き」を創るまで

小規模多機能ホームさかえまち（以下「さかえまち」）では、平成 23 年に日野市で初となる若年性認知症の当事者と家族の会「芽吹き」を立ち上げ、今日まで活動を続けています。現在 13 名の当事者とそのご家族、そしてこの地域のサポーターが入会しています。

活動を開始してから、五、六十代のアルツハイマーや高次脳機能障害の方の相談を受ける機会が増えました。相談を受ける中で、さかえまちを利用したいとご希望される方もいます。そういう方々を受け入れていくうちに、現在さかえまちは、登録者の 6 名が 65 歳以下という、若年の方が複数ご利用される特徴的な事業所となりました。なお、「芽吹き」の会員である当事者の方の半数は当施設以外のサービスをご利用されています。この会の活動を担っているのは「さかえまち」ですが、事業所の登録者だけではなく、広く地域の方を対象とした相談窓口としても機能しているのです。中には、若年性認知症の方を支える会がないということで、わざわざお隣の市から足を運ばれている方もいます。

若年性認知症の方を支援する会を創るにあたっては、50 代の男性のご利用者と、その奥様との出会いがありました。奥様には周囲の理解を得られず悔しい思いをしたご経験があり、初めてお目にかかる頃より、日野市でこのような会を共に立ち上げてほしいとのお誘いを受けていました。しかし会を立ち上げようとしても、高齢の方に比べ若年の方の数はずっと少ないため、ただ受け身でいるだけでは私たちの試みを知っていただけません。そこで日野市と医師会にご協力いただき、若年性認知症のセミナーを開催しました。会場に当事者の方やそのご家族が足を運ぶ可能性があると考えての試みでした。セミナーでは期待通りに 50 代の方と繋がり、会を立ち上げることができたのです。その後も日野市が「芽吹き」のメンバーによる講演会を開催して下さり、宣伝の機会を得ることができました。そしてこの講演会を機に、この「芽吹き」という若年性認知症の方の相談窓口の存在が周知され、問い合わせを受けるようになったのです。

2. 「芽吹き」の活動内容

「芽吹き」では隔月でイベントを開催しています。ボーリング大会や素麺流し、植物園散策、宴会等々、当事者の方のご希望に応じて活動内容を決めています。開催の時は地域の方の力を借りながら、「さかえまち」のスタッフが黒子となって盛り上げています。

ご家族同士で体験を分かち合えるような懇談会も設けています。懇談会には医師も参加しており、ご家族の悩みや疑問に応えています。何かあれば個別相談も隨時受けています。

若年性認知症についての啓発活動にも力を入れています。以前日野市の協力を得て若年性認知症をテーマにした映画『明日の記憶』の上映会が実現しました。また、今年も日野市の協力を得て、「芽吹き」の会員 3 名の方が講演の機会をいただくことができました。

3. 小規模多機能ホームさかえまちの活動内容

次に、「芽吹き」の活動とは別に、「さかえまち」の日々の活動内容も紹介します。若年のご利用者の活動で最も力を入れているのが農作業です。これは 54 歳でアルツハイマーと診断されたご利用者の一言で始まりました。彼は自分が病気であることを理解しているのですが、その喪失感の中、畑仕事は唯一自信を持ってできる作業だと言われたのです。

ならばその力を発揮していただこうとスタッフが、無料で使える畠を探してきました。天気の良い日は若年の方数名で畠に出かけます。採れた野菜は地域の販売所に卸しています。他にも近所のケーキ屋さんの鉢植えの手入れを担うなど、屋外での活動が中心となっています。こうした活動が好きな人にとって一番困るのが雨天時です。室内で何もせずにじっとしていること程辛いものはありません。そんな時は日曜大工や卓球など、室内でもできる作業や運動を行っています

4. 活動の成果

「芽吹き」及び「さかえまち」は、高齢者ばかりの施設や活動に馴染めない当事者の方にとっての居場所として機能しています。デイサービスに馴染めず、「さかえまち」の登録に至った方もいます。「さかえまち」では自然に若いご利用者同士が集まって過ごしています。

また、ご家族にとっても大切な居場所となっています。当事者の方は若いこともあります、高齢の方よりも見た目には健康的です。そのためいくらご家族が介護の苦労を語っても、その度に周囲の無理解に傷ついてしまいます。こうした無理解から、ご家族が孤独に陥る場合もあります。そんなご家族からは、ずっと誰にも理解してもらえないつらかったが、この会で悩みを分かち合えて救われた、といった言葉をいただくこともあります。

やはり何よりも大きな成果は、若年の方を支援する糸口ができることだと考えています。支援をしたくとも、どこに当事者の方がいらっしゃるか分からなければそれはかないません。若年の方の相談窓口として認知されるようになったことで、「さかえまち」の登録者だけではなく、広く地域において困っている方々の支援も可能になりました。

5. 今後の課題

若年性認知症の方を支援する上で一番の苦労は、ご家族が当事者の病気をなかなか受け入れられないところにあると感じています。若くして認知症になることは、誰にとっても思いもよらないことなのです。しかしご家族が受け入れられずにいる間にも、当事者の方の心身は速いスピードで変化します。当事者の方とご家族のこうしたギャップを埋めることも「芽吹き」の役割の一つです。しかし現状ではこのギャップを確実に埋める方法はなく、ご家族の気持ちを察しながら、当事者の方の変化を客観的に伝えるのが精一杯です。

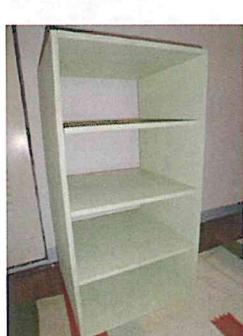
もう一つ課題としていることがあります。私は、まだまだ多くの能力がある若年の方が、わざわざお金を支払い介護保険を利用していることに違和感を覚えることがあります。周囲の理解があれば、ちょっとした支援で当事者の方は働くことができるのです。つまり、認知症だからといって必ずしも介護保険サービスを受ける必要はないと考えています。当事者の方が周囲の理解を得ながら働ける場が増えることを願ってやみません。そして、そういう場を増やして行くために、小規模多機能型居宅介護を運営する事業者として何ができるのか、問わずにはいられません。



畠作業



鉢植えの手入れ



ご利用者作の靴箱

「認知症カフェ」オープン



9

月 30 日 日野市栄町に認知症カフェをオープンしました。

カフェは都営団地の 1 階にあります。団地内には高齢者や障害者向けの賃貸住宅があり、当法人が運営する「小規模多機能ホームさかえまち」が隣接しています。

カフェの名称は「あったカフェ」といいます。名称は職員公募により決めました。「ほっこり、あったかい場所」「ここに在った」「あなたに逢った」という意味が込められています。

ボランティアの皆様の協力を得て運営しています。

あったカフェは

認知症の当事者やそのご家族、地域の方、専門職など誰もがゆったりと過ごせる場所です。

また、認知症のことを知りたいと思われている地域の方々の情報交換の場所としてもご利用いただきたいと思います。

社会福祉法人マザアスは「認知症になっでも安心して暮らせる地域つくり」へ貢献していきます。



「あったカフェ」概要

入館料: 100 円 (コーヒー又は健康茶付き)

開館日時: 毎週水曜日 10:00~16:00

場 所: 東京都日野市栄町 2-17-1

都営栄町二丁目アパート 2 号棟 1 階

電 話: 042-582-0311

設 備 等: カフェスペース 2 室 (8 席+8 席)

リラックスコーナー (マッサージ機 2 台)

会議室 1 室 (16 席) 誰でもトイレ (1 箇)

編集後記

早くも新装丁「第 2 号」の発行です。編集から印刷まですべて自前で行っています。印刷業者に委託していた頃と比べると手作り感いっぱいの紙面ですが、最後まで目を通してください感謝します。ご意見、ご感想、お待ちしています。(編集担当 黒澤信一 メール: office@moth.or.jp)